

ピアサポートの意義および効果に関する包括的研究：

地域事業所のモニタリングとピアサポートの効果を測るコホート研究



質問紙票

利用者用（スタッフ評価）

機関 ID

本人 ID

スタッフ ID

記載日

年

月

日

当てはまるものに✓（☑）を付けてください：

初回調査

9 カ月後調査

18 カ月後調査

利用者があなたの機関を利用した際のきっかけ（当てはまる番号に○）

1. 第3者による勧めできた

⇒「1」に○をつけた場合は、当てはまるもの全てに✓を付けてください。

家族・友人、その他のインフォーマルな社会資源

地域福祉事業所や医療機関、行政のスタッフなど

2. 自分で探してきた

3. 不明

※灰色部分は初回調査のみ

性別（当てはまる方に○） 女 男	生年月日（年は西暦）	BL 時年齢 才
精神疾患名（主診断として当てはまる番号に <u>ひとつだけ</u> ○） 1. 統合失調症 2. 気分障害—うつ病性障害 3. 気分障害—双極性障害（躁うつ病） 4. 神経症性障害, ストレス関連障害, 身体表現性障害, 5. 摂食障害 6. パーソナリティ障害 7. その他（ ）		
最終学歴（当てはまる番号に○） 1 小学校 2 中学校 3 高等学校 4 専門・専修学校 5 短期大学 6 大学 7 大学院修士課程 8 大学院博士課程 9 その他（ ）		婚姻状況 （当てはまる番号に○） 1 未婚 2 既婚 3 離別 4 死別
過去9ヵ月の生活状況（当てはまる番号に○） 1 独居 2 家族同居 3 家族以外と同居 4 グループホーム等 5 施設入所 6 その他（ ）		
<p>※<u>2 または 3 に○をつけた方は同居している人に○をつけてください。</u></p> <p>父 母 兄弟姉妹 子ども パートナー 友人 親戚 その他（ ）</p>		
過去9ヶ月の勤務状況 （当てはまる番号に○） 0. 特にない 1. 一般企業のフルタイム就労（一般雇用） 2. 一般企業のアルバイト・パートタイム （一般雇用） 3. 一般企業のフルタイム就労（障害者雇用） 4. 一般企業のアルバイト・パートタイム （障害者雇用） 5. 精神障害者ステップアップ雇用 6. 障害者試行雇用（トライアル雇用） 7. 委託訓練 8. 就労継続A型 9. 就労継続B型 10. 特例子会社 11. その他（ ）		その他（当てはまる方に○） 過去1年間の精神科への入院歴（有・無） →ある場合の入院日数（ ）日 精神障害者保健福祉手帳（有・無） →ある場合の等級（ ）級 障害者年金の受給（有・無） →ある場合の等級（ ）級 生活保護の受給（有・無） 過去1年間の逮捕・拘留歴（有・無）

☆現在または過去 9 ヶ月以内に利用している（した）サービスについて

利用の有無，ひと月の平均利用回数，ピアスタッフの有無を教えてください

サービス名	利用の有無	ひと月の利用回数	ピアスタッフの有無
1. デイケア	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
2. ショートケア	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
3. 訪問看護	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
4. 障害者就業・生活支援センター	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
5. 居宅介護（ホームヘルプ）	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
6. 重度訪問介護	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
7. 同行援護	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
8. 行動援護	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
9. 重度障害者等包括支援	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
10. 療養介護	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
11. 生活介護	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
12. 生活訓練（宿泊型）	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
13. 生活訓練（通所型）	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
14. 生活訓練（通所型・訪問型）	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
15. 就労移行支援	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
16. 計画相談支援	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
17. 地域移行支援	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
18. 地域定着支援	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
19. 移動支援事業（ガイドヘルプ）	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
20. 地域活動支援センター	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
21. コミュニケーション支援事業	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
22. 日常生活用具給付事業	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無
23. 専門性の高い相談支援事業	有 ・ 無	月に 回	有 ・ 無

G A F 得点

_____点 (※文中の「症状」は精神的な不調・症状を指し、身体面での障害・症状は除きます)

過去1カ月間で一番状態が悪いときについて、精神的健康と病気という一つの仮想的な連続体にそって、心理的、社会的、職業的機能を考慮してください。身体的(または環境的)制約による機能の障害は含めないでください。また、たとえば、45、68、72のように、それが適切ならば、中間のコードを用いてください。症状の重症度と機能レベルの二つの側面から評価をします。

91 - 100点から順に読み進めていき、その方の症状の重症度または機能レベルのどちらか悪いほうが当てはまる得点範囲(例: 31 - 40点)を決めてください。

100-91	広範囲の行動にわたって最高に機能しており、生活上の問題で手に負えないものは何もなく、その人の多数の長所があるために他の人々から求められている。症状は何もない。
90-81	症状がまったくないか、ほんの少しだけ(例: 試験前の軽い不安)。すべての面でよい機能で、広範囲の活動に興味をもち参加し、社会的にはそつがなく、生活に大体満足し、日々のありふれた問題や心配以上のものはない(例: たまに家族と口論する)。
80-71	症状があったとしても、心理社会的ストレスに対する一過性で予期される反応である(例: 家族と口論した後の集中困難)。社会的、職業的、または学校の機能にごくわずかな障害以上のものはない(例: 一時的に学業に遅れをとる)。
70-61	いくつかの軽い症状がある(例: 抑うつ気分と軽い不眠)。または社会的、職業的、または学校の機能にいくらかの困難はある(例: 時にする休みをしたり、家の金を盗んだりする)が、全般的には機能はかなり良好であって、有意義な対人関係もある。
60-51	中程度の症状(例: 感情が平板で、会話がまわりくどい、時にパニック発作がある)、または、社会的、職業的、または学校の機能における中程度の困難(例: 友達が少ししかいない、仲間や仕事の同僚との葛藤)。
50-41	重大な症状(例: 自殺念慮、強迫的儀式が重症、しょっちゅう万引する)、または社会的、職業的、または学校の機能におけるなんらかの深刻な障害(例: 友達がいない、仕事が続かない)
40-31	現実検討かコミュニケーションにいくらかの欠陥(例: 会話は時々非論理的、あいまい、または関係性がなくなる)。または、仕事や学校、家族関係、判断、思考、または気分など多くの面での重大な欠陥(例: 抑うつ的な男が友人を避け、家族を無視し、仕事ができない。子供がしばしば年下の子供をなぐり、家庭では反抗的であり、学校では勉強ができない)
30-21	行動は妄想や幻覚に相当影響されている。またはコミュニケーションか判断に重要な欠陥がある(例: 時々、滅裂、ひどく不適切にふるまう、自殺の考えにとらわれている)、またはほとんどすべての面で機能することができない(例: 1日中床についている、仕事も家庭も友達もない)。
20-11	自己または他者を傷つける危険がかなりあるが(例: 死をはっきりと予期することなしに自殺企図、しばしば暴力的になる、躁病性興奮)、または時には最低限の身の清潔維持ができない(例: 大便をぬりたくる)、またはコミュニケーションに重大な欠陥(例: 大部分滅裂か無言症)。
10-1	自己または他者を傷つける危険が続いている(例: 暴力の繰り返し)、または最低限の身の清潔維持が持続的に不可能、または死をはっきり予測した重大な自殺行為
0	情報不十分

質問と観察		最近1週間に関する質問： 「憂うつなことはありませんか?」, 「それはひどかったですか?」, 「しばしばありましたか?」				
		なし	軽度	中等度	重度	極度
1. 抑うつ	<p>面接時の実際の行動(落胆した姿勢, 悲しげな容顔, 失意の底にあるかのような態度など)だけではなく, 包括的な抑うつ症状と, この感情の異常が精神状態に与える影響を臨床的に評価する。面接で観察された抑うつと最近1週間に観察された抑うつ気分との間に違いがある場合には, より重症なほうに評価する。</p> <p>=気分の落ち込み</p>	0 面接時正常な態度と行動。抑うつ的な症状はきき出せない。	1 抑うつ症状(時折心ざぎ込む, 気力不足など)が少しあるが, 病的とはみなせない。または, 臨床的意義を持つには至らない普通の性格特徴とみなせる。	2 臨床的に抑うつと考えられるが, 軽度である。最近1週間にかんがりの苦痛を引き起こすか, あるいは日常の自分とはかなり違ったとみなされる抑うつ気分が時々あった。	3 臨床的に重度の抑うつと考えられる。または, 2で述べた抑うつ気分が, 最近1週間にしばしばあったか, または抑うつによるはなはだしい苦痛が時々あった。	4 臨床的に極度の抑うつと考えられる。重い抑うつ症状(例えば, 強い自殺念慮, 泣くことを自分で止められないなど)が存在するか, または, 最近1週間に抑うつによるはなはだしい苦痛がしばしばあった。
質問と観察		最近1週間に関する質問： 「不安なことはありませんか?」, 「それはひどいですか?」, 「しばしばありましたか?」				
		なし	軽度	中等度	重度	極度
2. 不安	<p>面接時に観察された不安の直接的な症状に加えて, 病的な不安が精神状態に与える影響についても評価する(交感神経の過活動, 湿った手のひら, 軽い振戦, 皮膚のしみなどのある種の生理学的な徴候も含む)。不安が焦燥を伴うならば, 3)以上に評価する。面接時に観察された不安と, 最近1週間に述べられた不安との間に違いがある場合には, より重症なほうに評価する。</p> <p>=不安の表れ</p>	0 面接時正常な気分。	1 患者の現す緊張が, 病的とはいえない普通の性格特徴か, または面接状況に対するもっともな反応であると考えられる。	2 臨床的意義のある軽度の不安, あるいは緊張を現していると考えられる。または, 最近1週間にかなりの苦痛をもたらす不安が時々あった。	3 臨床的意義のある重度の不安, あるいは緊張を現していると考えられる。患者は面接に対しても不安を感じ, 安心感を与えてもらいたいと思うが, 不安によって面接が中断されることはあまりない。不安に伴って焦燥が存在することもある。または, 最近1週間にしばしばかなりの苦痛を引き起こす不安があったか, 時々はなはだしい苦痛を引き起こす不安があった。	4 臨床的意義のある極度の不安, あるいは緊張を現していると考えられる。患者は寛ぐことができず, 不安によって面接がたびたび中断される。または, 不安に伴って高度の焦燥が存在したり, 恐怖のあまり差し迫った問題に気を取られたりする。または, 最近1週間に不安によってはなはだしい苦痛がしばしば引き起こされた。

質問と観察		最近1週間に関する質問：「他の人とうまくつきあえますか?」、「誰かがあなたに敵対しているようですか?」、「考えを邪魔されませんか?」、「テレビや新聞であなたのことを言っていないか?」				
		なし	軽度	中等度	重度	極度
3. 妄想	<p>事実に基づかない誤った確信。</p>	0 面接時異常が認められない。	1 風変わりな信念や些細な曲解(例えば、悪い天気は核実験のせいである)、迷信、宗教的な信念など。	2 優格観念(強い感情が伴う考えで、長時間頭から離れられないもの)、関係念慮(本来、自分と関連のない周囲の出来事が自分に関係していると感じること)、明らかな曲解、独特な意味づけ。	3 最近1カ月に明らかな妄想や妄想知覚があったと述べるが、最近1週間には持っていることは否定する。または、妄想を語るが、固定しておらず訂正可能である。	4 明らかな妄想が存在し、現在も持ち続けている。
<p>優格信念の例 妻が他人と不倫している、自分はすごい発明をした</p> <p>関係念慮の例 笑い声が自分のことを笑っていると感じる、新聞の内容が自分のことを報道していると感じる</p>						
質問と観察		最近1週間に関する質問：「誰もいないのに声が聞こえませんでしたか?」、「実際にはないものが見えませんでしたか?」				
		なし	軽度	中等度	重度	極度
4. 幻覚	<p>最近1週間に幻覚が存在したかどうか、もし存在したならば、それは真正幻覚か偽幻覚か、さらに幻覚の頻度を決める。</p> <p>＝対象のない知覚</p>	0 幻覚の症状はない。	1 幻覚体験は明確には病的といえない。入眠時幻覚、直観像、錯覚など。	2 聴覚、視覚における偽幻覚、内省に結びついた幻覚(例えば、死別に引き続くものなど)	3 最近1週間に真正幻覚があったが稀にしか起こらない。	4 最近1週間に真正幻覚がしばしばあった。
<p>真正幻覚…知覚が明らかで、外側に生じる 例：目の前にきらきら光るものが見える 後ろから自分の悪口が聞こえる</p> <p>偽幻覚…画像か音声がわからず、内側に感じるイメージ 例：神様と対話している自分の姿が頭に浮かぶ 自分の考えが声になって頭に響いている</p>						
観察	なし	軽度	中等度	重度	極度	
5. 感情の平板化・不適切な感情	<p>感情の平板化は、感情反応の範囲に関する障害を指す。自分の病歴を語る問患者は出来事が与えた衝撃をうまく伝えることができず、親しい人について話している間も温かみや思いやりを伝えることができない。</p> <p>＝感情が平べったくなったり、場にそぐわない感情を示すこと</p>	0 面接時正常な反応を示す。	1 感情表出を伴ってしかるべき話題を話している時もぶっさらぼうで寡黙、反応に乏しい。しかし、病気の徴候というよりむしろ普段の性格特徴とみなされる。	2 臨床的意義のある軽度の感情反応の障害。重要な課題について話している時に、感情の抑揚を明らかに欠くか、または面接中時々であるが明らかに不自然な感情反応を示す。	3 臨床的意義のある重度の感情反応の障害。温かみ、あるいは思いやりが感じられない。病歴を述べても出来事の衝撃をうまく伝えることができず、将来への関心がない。または、しばしば軽度の不適切な反応が、もしくは時々高度の不適切な反応がみられる。	4 臨床的意義のある極度の感情反応の障害。どんな時も感情の反応はみられない。または、間が抜けていたり、尊大だったり、くすくす笑ったりなどといった高度の不適切な反応がしばしばあり、面接が妨げられる。

観察		なし	軽度	中等度	重度	極度
6. 精神運動減退	精神障害によって動作・反応が鈍くなること	0 面接時正常な態度と言語。質問に対してかなりすばやく答える。自発的な態度と表情の変化がみられる。	1 動作の緩慢さ、自発性の乏しさがみられるが、普段の性格特徴が、病的な段階には達していない。	2 面接時動作の緩慢さや自発性の乏しさが臨床的に認められ、それは精神障害によるものである。質問に対する答えの遅れが、普段の性格特徴ではなく、病的な精神状態の一部と考えられる場合2と評価する。	3 面接時に精神障害による精神運動減退が容易に認められ、それが現在の異常な精神状態に大きく影響していると考えられる。	4 極度の精神運動減退がみられる。
観察		なし	軽度	中等度	重度	極度
7. 減裂思考	思考の流れにまとまりがなく、話題が突然飛躍したり、無関係の事柄どうしが結びついていること	0 思考障害の症状がない。	1 時に奇妙な応答をするが、思考障害の基準を満たすほどではない。観念間の関連を理解することは常に可能である。	2 時々思考障害の症状がみられるが、それ以外はまとまりがある。	3 しばしば思考障害の症状がみられるが、患者との意味のある会話は可能である。または時々言語が減裂となる。	4 意味連合の方向を欠くために応答が理解できない。言語内容はしばしば減裂となり、意味の脈絡が理解不能である。
観察		なし	軽度	中等度	重度	極度
8. 寡言・無言	発話の減少	0 言語は量的にも形式的にも正常。	1 話しかけられた時のみ話し、応答は短い。	2 時々口ごもったり、沈黙したりするが、面接はほぼ円滑に進む。または患者がぼんやりしたり、ためらったり、応答が短かったりするため会話が妨げられる。	3 単音節の応答。長い沈黙、あるいは全く応答しない。または言語量はかなりあるが、応答に時間がかかったり、ためらったり、内容を欠き、とりとめがないため、意味のある会話がほとんどできない。	4 面接中無言である。または二言三言だけ話す。あるいは絶えず小声でつぶやいている。